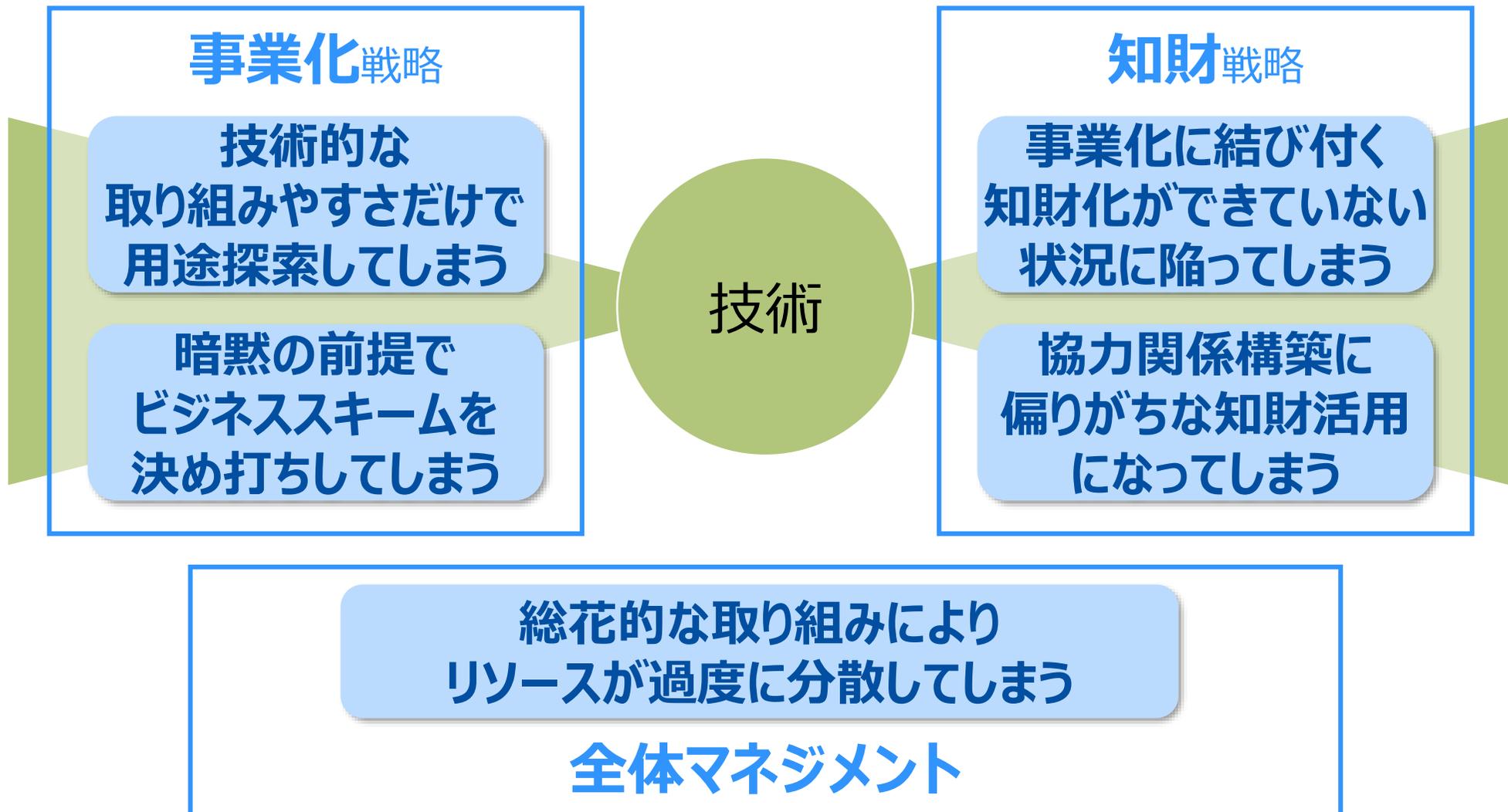


技術を活かした事業創出時の落とし穴

過去の支援事業を踏まえると、「事業」「知財」「全体マネジメント」の観点で共通的な落とし穴が散見された



事業化戦略では、下記の課題に陥りがち・・・

**技術的な
取り組みやすさだけで
用途探索してしまう**

思い付きの用途に
飛びついてしまう

分かりやすい
長期的な用途仮説だけに
注目してしまう



**暗黙の前提で
ビジネススキームを
決め打ちしてしまう**

付き合いのある企業との協業が
暗黙の前提となってしまう

業界構造を踏まえた
事業拡大の可能性まで
考慮できていない

知財戦略では、下記の課題に陥りがち・・・

**事業化に結び付く
知財化ができていない
状況に陥ってしまう**

知財化してみたものの
事業化に繋がらない

時期に後れて
知財化するタイミングを
逃してしまった

**協力関係構築に
偏りがちな知財活用
になってしまう**

ライセンスしたものの
その後の展開の障害
になってしまった

継続的な研究開発
に繋がるマネタイズに
至っていない



全体マネジメントでは、下記の課題に陥りがち・・・

総花的な取り組みにより リソースが過度に分散してしまう

複数テーマに取り組むが、
「全部均等に重要」としがち

地域の関係者調整を経て、
「あれもこれも」と加えがち

複数テーマ間の
時間軸的シナリオを考慮せず、
投入リソースが散逸化しがち

複数テーマ間での
大玉化の絵が描けておらず、
引き合いベースで
とりあえず広げてしまう

